

パパママサミット 2017
(やさしさ+ちょっとの想像力) × 行動＝納得のパートナーシップ
～我が家流 ライフ・ワーク・バランスをさぐる～
平成 29 年 11 月 25 日

パネルディスカッション
「今日からできる納得のパートナーシップ～家事も仕事も子育ても～」

第 2 部は、小島慶子さん、瀬地山角さん、堀込泰三さんの 3 名をパネリストに、治部れんげさんをモデレーターに迎えパネルディスカッションを行いました。

＜気持ちと現実、データでみると＞

まず瀬地山さんから、家庭と仕事の両立の現状についてスライドを使って説明がありました。

「独身者を対象にした国の調査では、配偶者に求めるものの第 1 位は男女とも「人柄」ですが、そんな定義不能な項目は無視するとして、実質的な第 1 位は男女とも「家事・育児の能力」で、第 2 位は男性が「仕事的能力」、女性が「仕事への理解」になります。また、将来のライフコース予測で、将来自分は専業主婦になると回答した女性は 7.5%、またパートナーに専業主婦になってほしいと回答した男性も 1 割くらいです。しかし、「共働き世帯の家事関連時間の週平均」は男性が 46 分、女性は 4 時間 54 分というのが現実で、希望とは裏腹に、女性への負担がかかり過ぎです。」

ここで、テレビコマーシャルが紹介されました。

母親が一人で食事を作り子育ての全てを担っている味の素の CM、父親と子供がご飯を作って母親の帰りを待つサッポロ一番の CM。特に衝撃的なのはアリナミンVやチオビタの栄養ドリンクの CM で、そこでは疲れても頑張ることを求められる男性の現実が描かれています。

「何で男だけこんな恐ろしい目に遭わないかんのですか？ 日本は、20 代から 40 代前半にかけて男性の死亡原因の 1 位は自殺です。1998 年から 2011 年まで毎年 3 万人を超えていました。こんな国は珍しいのです。」と瀬地山さん。

小島さん：「男性は弱音を吐いてはいけない、苦しいと言ってはいけないというメッセージがドラマや CM から繰り返されてきました。そのようなメッセージを常に受けながら生きなければならないのはしんどいことだろうと思います。」

<主夫とイクメン>

堀込さんからは、主夫になった経緯が語られました。

妊娠が分かった時に妻が仕事を辞めたくないと言ったから、職場の制度が整っている自分が育休を取ることにしたこと。全面的に家事・育児を担うだけでなく、「子供と過ごしたい気持ちを持ちながら働いている妻」への配慮（職場で授乳できるように赤ちゃんを1日2回妻の職場に連れて行く）のエピソードもあり、「稼ぐ男」がかっこいいというメッセージから自由な生き方が印象的でした。

「でも」と堀込さん。「妻によると、付き合っている時に「結婚したら仕事を辞めるんですよ？」と聞いたことがあったそうです。妻はショックだったから覚えていますが、僕は覚えていないのです。だから、固定観念を持っていたかと言えば持っていたのでしょう。」

現在堀込さんが CEO をされている「秘密結社主夫の友」は、女性が家事育児・男性は働きにという固定観念を壊したいという思いで活動を始められたそうです。

主夫の定義は「主体的に家事・育児をする夫」。イクメンとの違いは、イクメンは決められたことを決められた時間でやるアルバイト、主夫は主体性を持つ社員。妻も夫も、収入や家事の分担量ではなく主体性を持って関わるのが重要であること。

それぞれのライフ・ワーク・バランスではなく、夫婦が二人とも主体性を持って家のことを考えていく「夫婦ライフバランス」が良いのでは。バランスは変わっていくものだからその都度話し合うことが大事、ということでした。

<コミュニケーションと“呪い”>

「妻が仕事を辞めたくないと言ったから、それならどうすれば良いのか考えて、自分が主夫になった。」という堀込さんの発言から、産休・育休を取るときのコミュニケーションに話は広がりました。

瀬地山さん：「日本の育児休業法は北欧と比べなければ世界的にみてもよくできています。

男性でも非正規社員でも取得できる労働者の権利なので使わない手はありません。」

堀込さん：「私も育休を取ることを上司に相談する時は悩みました。腹を割って話せば本当は分かってもらえるのに、言い出しすらしていないことが多いのではないのでしょうか。」

小島さん：「最後に乗り越えなきゃいけないのは、こんなこと言ったら疎まれて不利益を被るかもという自分の不安をどうするか。もし周りで、権利はあるけど言いにくいと迷っている人がいたら、そんなことはないと言ってあげたり、ハラスメントが起きないようにしたりしていくことが大事だと思います。」

治部さん：「近くで暮らしていると、「言わなくても分かる」と思ってしまうのは、大きな落とし穴。また、日本の女性の特徴として、「言いたくない、夫の前で可愛い女でいたい症候群」が強いために、話し合いやけんかを避ける傾向があるように思います。」

小島さん：「男社会の呪い、女としての呪いでしょうか。」

堀込さん：「お母さんなんだからという呪いもあると思います。いわゆる良妻賢母の呪い。これしかご飯作れなかったとか。作るだけでも素晴らしいのに。」

< “呪い” の解き方 >

そこで呪いの解き方を皆さんが話されます。

小島さん：「予想がつかない事態に陥った時がチャンス。物の見方を変えたり価値観を変えたりして順応することで呪いが消えるのでは。また、「料理は愛情」も呪い。手料理よりも誰とどんなふうに食事をしたかが重要。あと、親世代から求められる性別役割の呪いもありますね。」

治部さん：「キャラ弁は作らなくていい、と園長先生に言われて気が楽になりました。」

瀬地山さん：「データから呪いを解きます。専業主婦は大都市部の中産層に特有特定のライフスタイル。皆さんの周りに多いのでその価値観が呪いのように刷り込まれるのですが、多数派ではありません。世代間の性別役割のギャップからくる呪いにかからないためには、夫婦がそれぞれの両親の口出しをブロックすること。ママじゃなきゃダメも呪い、というかうソ。要はお父さんとの時間を長く取ればいい。まずは休日のお昼ご飯から。すぐにできることとして、ベランダにシートを敷いてカセットコンロでレトルトカレーを作ってください。子供はピクニック気分で大喜びですよ。導入編はそれでいいんです。」

忙しい日常の中で子供に寂しい思いをさせているのでは、という呪いについては小島さんから「子供と寂しさも嬉しさもシェアすることが大事です。保育園でお迎えの最後の一人になったとしても、いかに会えて嬉しいかという気持ちを子供に伝えることが大事だと思います。今小さいお子さんをお持ちで不安な方は安心してください。」という言葉がありました。

瀬地山さんから、夫婦のコミュニケーションのツールとして、内閣府男女共同参画局作成の「〇〇家作戦会議」というフォーマットが紹介されました。

最後に、「第1子出産時に男性側のサポートを得て女性が正社員を続けることで、男性は大黒柱で頑張り続けなくても良くなり、自殺にも追い込まれません。女性の就労が最終的には男性の命を救うのです。つまり、男の家事は自分の命を救うんですよ。男性が家事・育児をすることが、いかに「家計」にとって合理的であるか。男女平等という観点だけでなく、家計のリスク管理として考えた時に合理的な選択なんです。」という力強いメッセージが根拠となるデータと共に瀬地山さんから届けられました。

小島さん、堀込さんの体験や実感を瀬地山さんのデータが裏付け、説得力のあるディスカッションの展開に会場は笑ったり驚いたり納得したり大盛り上がりでした。

最後に提言をいただきました。

●小島さんの提言：「共に育て 共に育つ」

コメント：お互いに相手を育て、一緒に変化することが大事だなと思いました。育つとは相手とのコミュニケーション。夫婦って絶え間なく関係を更新し続けていけるのだと思います。相手との時間の中で自分も変わっていく。それを育つという建設的な言葉で表現してみました。

●瀬地山さんの提言：「夫が家事を手伝ってはいけません／ゴミ出しは家事ではありません」

コメント：家事は「手伝う」ものではありません。共有するもの、シェアするものです。あとゴミ出しは家事ではありません、あれはゴミとの散歩です。夫の家事は休日のお昼から始まります。だから、ママは出かけちゃいましょう。ママがいなくても成立する育児を一步步ずつ作っていくのです。そういうふうに発想を変えてみてください。

●堀込さんの提言：「自ら笑い 自ら感謝」

コメント：人間関係は鏡です。鏡は先には笑わない、という言葉があります。相手に笑ってほしかったら、自分から笑いかけることが大事です。相手に感謝してほしかったら、自分から感謝することが大事です。自分に対してもそう言い聞かせています。

●治部さんの提言：「ママじゃなきゃダメなことはない！！と知る」

コメント：いまだにパパだけで子供を連れていると、「ママはどうしたの？」と言われることがあります。そうではないことを周囲も知ることが大事です。パパはママの代わりではなく、パパはパパで完全な存在であることを周囲も知ることが大切です。

—パネルディスカッション終了—

■参加者の声（一部抜粋）

★父・母の役割分担にこだわる必要がないことに気付き、気持ちが楽になりました。

☆家族と気持ちをシェアするように心がけたいと思いました。

★専業主婦の自分に対して、夫にもっと労ってもらいたいと思っていましたが、コミュニケーション不足を感じ、夫の気持ちを知ろうとして理解し、感謝の気持ちを自らも持つようになりました。

☆夫に子供を任せて出張します！

★女性が働けば1億円になることが分かって良かったです。

☆共働きは子供に寂しい思いをさせ、人生に暗い影を落とすという思い込みがあり、結婚はしたいが働くこと（正社員）も出産も敬遠している現状です。しかし、今日のパネルディスカッションにて、そういう思い込みが自分を苦しめているという側面に気付きました。

★ママの呪い、女性の呪い、男性の呪いをずーっと世間やマスコミから刷り込まれ、「当たり前」化していましたが、それを自分が嫌と思いつつも、子供に対してそう接してしまう可能性がありました。子供に対する接し方や言葉の変化が起きると思います。

☆男性に家事などを期待できないと思い込んでいましたが、ワンオペ家事・育児は破たんするんだろうなぁと考え直しました。

★夫ともう少し話すことを意識的に行いたいです。

☆既存の価値観、常識を疑ってみることの大切さを改めて感じました。